

彫刻家「高橋英吉」を知っていますか？

高橋英吉の生涯

高橋英吉は明治44年に石巻で生まれ、旧制石巻中(現・石巻高)から東京美術学校(現・東京藝術大)彫刻科に入学しました。昭和11年、研究科に進み文部省美術展覧会(現・日展)に「少女像」を出展し、初入選しました。しかし、より高みを目指して思い悩んだ英吉は、昭和12年に研究科を中退し、鮎川港から南極海へ向かう捕鯨船の乗組員になります。漁業に従事しつつスケッチを行い、帰国後にそのスケッチを基に制作活動を始め、昭和13・14・16年の新文展(第2〜4回)に出展しました。第2回は入選「黒潮冥白」、第3回は特選「潮音」の成績を残しました。昭和15年に結婚し、翌年に長女が誕生。将来を嘱望されましたが、太平洋戦争に召集され、昭和17年11月2日に31歳の若さで戦死しました。

高橋英吉の没後

昭和50年に「没後三十三周年記念・高橋英吉遺作展」が石巻市図書館で開催されました。また、行方不明だった「潮音」が鳥取県境港市で発見されたことで、高橋英吉が戦没したガダルカナル島に「潮音」ブロンズ像を建立、オーケストラ・映画などが制作されました。そして、市制50周年を機に、高橋英吉の作品を公開・保管する施設の建設が決定され、昭和61年、英吉の命日である11月2日に石巻文化センターが開館しました。東日本大震災を経て、新たに開館した石巻市博物館においても、高橋英吉とその作品は展示の中核的存在になっています。



常設展示室



常設展示室のテーマは「大河と海に育まれた石巻」。導入展示のほか、先史・古代・中世・近世・近代の5つの時代で構成される「歴史文化展示室」、高橋英吉作品展示室、石巻出身の故毛利総七郎氏のコレクションを展示する「毛利コレクション展示室」、石巻出身あるいは石巻にゆかりのある先人たちを紹介する「石巻にゆかりの先人たち」の展示で構成されています。

◀展示室に入るとすぐに目に入ってくるのは、石巻を構成する地域の風景。展示のテーマである「大河と海に育まれた石巻」の現代の景観に触れながら、石巻の歴史・文化にかかる風土を感じることができます。



石巻地域の地形模型に、石巻の歴史と風景をテーマにした映像を投影した「石巻時空パノラマ」が置かれ、来館者に石巻の歴史と風景を紹介します。高低差を2倍にした地形模型により、地域の起伏や川の流路がよくわかります。

「石巻時空パノラマ」の奥にあるのが、石巻市博物館の目玉の一つであるヤマギヤムキヒロコ「a little world」。博物館の背後にそびえる「馬つこ山」から見える風景を2年かけて鉛筆で描写した本作に、同じ場所から撮影した映像を投影しています。幅9m、高さ3mのキャンバスに緻密に描き込まれた石巻の風景と光が織りなす世界が、来館者を石巻へ迎え入れます。



石巻市博物館
オンラインツアー
動画公開中!

視聴はこちら

石巻市博物館のロゴは、Ishinomaki City Museumの頭文字「ICM」をモチーフとして作成しました。「M」は博物館のコンセプトでもある「大河と海に育まれた石巻」を表現したデザインとなっています。

旧観慶丸商店の展示

旧観慶丸商店2階にある石巻市博物館のサテライト展示スペースで、所蔵資料や美術作品を展示しています。入館は無料ですので、気軽にお越しください。

- 浅井元義・熊倉保夫合同スケッチ展—二人で描いた石巻—
10月28日(月)まで
- 浅井元義スケッチ展 第6期「橋」の見える風景
10月31日(木)～令和7年1月20日(月)
- 特集展 濃波・流留塩田の歴史
10月31日(木)～令和7年1月20日(月)

旧観慶丸商店(中央3丁目6-9) ☎94-0911
午前9時～午後5時 火曜日休館

旧観慶丸商店
ホームページ



石巻市博物館

ってどんなところ？



石巻市博物館は、東日本大震災で被災し、平成25年に解体された石巻文化センターの後継施設として、令和3年11月3日に開館しました。

石巻文化センターは石巻に関する歴史・民俗・考古・美術の各資料を収蔵していましたが、東日本大震災による津波で甚大な被害を受けました。

しかし、自然災害によって被災した文化財の救出や応急措置、一時保管を行う「文化財レスキュー」により、多くの資料を博物館へ継承することができました。

大河と海に育まれた石巻

太平洋に臨し、北上川の河口に位置する石巻。豊かな自然環境の中で、人々が生活を営んできました。

石巻市博物館のコンセプトは「大河と海に育まれた石巻」です。石巻文化センターの常設展示室のテーマ「大河と海上の漣」を引き継ぎながらも、平成17年に石巻と合併した河北・雄勝・河南・熊生・北上・牡鹿の6町の歴史や文化も見渡した、より新しい石巻地域の姿を紹介しています。

常設展示やさまざまな企画展を開催していますので、ぜひ一度足を運んでみてください。

施設情報

〒986-0032 開成1番8号 マルホンまきあーとテラス内
☎98-4831 ✉icmcenter@city.ishinomaki.lg.jp
開館時間 午前9時～午後5時(最終入館 午後4時30分)
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
観覧料 常設展 大人300円 高校生200円 小中学生100円
※20人以上の団体は2割引 ※企画展料金は内容により変動

アクセス

公共交通(石巻駅から)
バス 宮城交通バス石巻駅1番乗り場 石巻専修大学線乗車
総合運動公園(石巻)下車 徒歩約2分
車 三陸自動車道 石巻女川ICより約5分

詳しくはこちら



歴史文化展示室

歴史・文化・芸術が

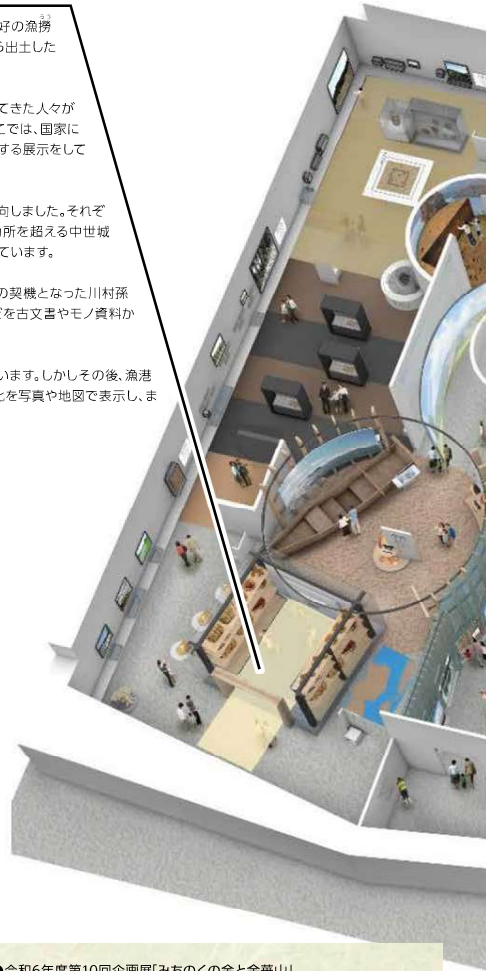
先史…縄文時代の石巻人にとって、後に世界三大漁場に数えられる石巻は格好の漁撈活動の舞台となりました。石巻は貝塚が多いことが特徴で、「国史跡」沼津貝塚から出土した骨角器などの資料、南境貝塚の剥ぎ取りも展示しています。

古代…古代の石巻地域では「蝦夷」と呼ばれる在地の人々と、他の地域からやってきた人々が共存し、交流していました。やがて石巻は国家の範囲へ組みこまれていきます。ここでは、国家による政治及び軍事拠点として築造された桃生城のジオラマなど、古代の石巻に関する展示をしています。

中世…中世の石巻には、武士である畠西氏・山内首藤氏・長江氏らが関東から下向しました。それに関する史跡が、今もなお市内に数多く残っています。彼らの痕跡である110力所を超える中世城館跡や、2,000基を超える板橋は中世石巻の特徴であり、テーマ展示として紹介しています。

近世…近世の石巻は、北上川と太平洋が交わる「湊」として発展しました。発展の契機となった川村孫兵衛による北上川改修をはじめ、川と海の舟運、仙台藩の貨幣をつくる鑄銭場などを古文書やモノ資料からわかりやすく解説しています。

近現代…江戸時代が終わると北上川の利用が減少し、石巻は徐々に衰退してしまいます。しかしその後、漁港や工業化に伴う工業港が建設され、再び活気を取り戻しました。近現代石巻の変化を写真や地図で表示し、「マチの暮らし」と「ハマの暮らし」がわかる道具類も展示しています。



企画展等情報

- 石巻市博物館開館3周年イベント
博物館展示室の無料開放や学芸員による展示解説(ギャラリートーク)、高橋英吉作品入替や映画上映、没後80年となる太宰春夫の作品展示などを行います。
とき 11月3日(日・祝)
- 常設展示ギャラリートーク
とき 10月11日(金)・27日(日)・11月3日(日・祝)・22日(金)午後2時
- 毛利コレクション特集展「総七郎が見つめた近代石巻」
とき 11月10日(日)まで
- 毛利コレクション特集展
「アイヌ民族資料を収集する—毛利総七郎・遠藤源七・杉山寿栄男の交流—」
とき 11月16日(土)～令和7年3月9日(日)
- 令和6年度第10回企画展「みちのくの金と金華山」
日本遺産「みちのくGOLD浪漫」をテーマに、古代～近代の産金、江戸時代の金華山をめぐる道と信仰などを取り上げます。
とき 令和7年1月25日(土)～3月23日(日)
- 第3回布施辰治特集展「布施辰治と石巻」
とき 令和7年2月16日(日)まで
- 令和6年度博物館講座
・第3回講座
「アイヌ民族資料を収集する—毛利コレクションと杉山寿栄男—」
とき 12月21日(土)午後1時30分
- ・第4回講座
「石巻の鑄銭場(仮)」
とき 令和7年3月29日(土)午後1時30分

並ぶ博物館

毛利コレクション展示室



毛利コレクション展示室では、石巻出身の故毛利総七郎氏が収集した10万点を超える母単なるコレクションを、年3回テーマを設けて特展展示しています。現在は、毛利コレクションより明治・大正・昭和の石巻の様子を伝える資料を集めた特集展「総七郎が見つめた近代石巻」を開催しています。毛利コレクションを通じて、少し昔の石巻の歴史を学んでみませんか？



石巻にゆかりの先人たち

このコーナーでは、石巻出身あるいは石巻にゆかりを持つ先人たちを紹介しています。弱き者のために闘った人権派弁護士布施辰治、アラスカのエスキモーを救ったフランク安田、高橋英吉と姻交のあった漆芸家の太宰春夫など。現在、このコーナーにて、布施辰治と石巻のつながりを紹介する特集展「布施辰治と石巻」を開催しています。



高橋英吉作品展示室



石巻出身の彫刻家 高橋英吉の彫刻やスケッチ、戦地から送られた絵葉書、恋人に宛てた手紙などを展示しています。代表作「海の三部作」や、母を弔うために彫った「聖観音立像」(石巻高校所蔵)、戦地での絶作「不動明王像」、軍隊手帳を常時展示しています。今年度も、11月3日(日・祝)の開館記念イベントに合わせて展示替えを行いますので楽しみに。また、東日本震災で被災した作品や資料を救出し、修復などの処置を施し、所蔵館に返却する「文化財レスキュー」を紹介する展示もあります。

